

秋田県農業委員会女性協議会だより 〈第10号〉

発行日 令和7年3月26日

秋田県農業委員会女性協議会

1. 総会・研修会の開催と役員を選任について

令和6年6月28日「秋田県生涯学習センター」において第21回総会を開催し令和5年度事業報告・収支決算、令和6年度事業計画・収支予算等のほか、監事1名の補充選任について決定しました。



令和6年度研修会の様子

役員（令和5～7）年度

会長	加藤 エリ子	湯沢市農業委員
副会長	金田 悦子	北秋田市農業委員
副会長	柴田 ますみ	秋田市農業委員
監事	佐々木美奈子	潟上市農業委員
監事	渡邊 久留美	大館市農業委員※

※令和7年6月総会より

終了後の令和6年度研修会では「農業委員・農地利用最適化推進委員のコンプライアンスについて」情報提供ののち「農業委員・農地利用最適化推進委員としての在り方」についてグループディスカッションを行い、個人情報の取り扱いやコミュニケーションの取り方、農地集積に係る課題などについて意見が交わされました。

2. 地区別研修会の開催

会費の負担状況（市町村数）

	R5	R6
会員負担	14 ⇒	9
委員会・市町村負担	11 ⇒	16

旅費の予算措置状況（市町村数）

北海道・東北B研修(※)	18 ⇒	8
全国シンポジウム	8 ⇒	4

(※)R5は秋田市開催、R6は山形市開催。

令和6年11月5日に北秋田市「コムコム」、14日に横手市「金沢公民館」、12月9日に秋田市「市町村会館」で2年ぶりとなる地区別研修会を開催しました。研修会では「秋田県農業委員会女性協議会を巡る現状と課題」として本会会費や関係行事である研修会出席旅費の公費負担の状況等について事務局から情報提供した後、「女性登用の推進と女性農業委員・推進委員の活動強化」についてグル

ープディスカッションを行いました。改選期に新任者向けの内容を取り入れることや、次期役員の選任方法として予め地区別で代表者を選出すること等の意見がありました。

3. 加藤会長が全国農業委員会女性協議会理事に就任

令和7年1月16日に東京都「主婦会館プラザエフ」での全国農業委員会女性協議会令和7年度総会にて本会の加藤エリ子会長が理事に就任しました。任期は3年間です。



全国農業委員会女性協議会総会での新理事就任挨拶

4. 令和7年度の行事予定

令和7年 6月下旬	第21回総会・令和7年度研修会（秋田市）
10月頃	地区別研修会（県内3箇所）
12月9日 (13:30~16:30)	令和7年度北海道・東北ブロック女性農業委員・推進委員研修会(札幌市・札幌サンプラザ)
令和8年 1月~	農業委員への女性登用に関する要請活動(県内17市町村)
1月中旬	女性農業委員登用促進研修会・全国農業委員会女性協議会総会(東京都)
3月上旬	女性の農業委員会活動推進シンポジウム(東京都)

5. 新会員の農業委員会業務への意気込み

農業委員・農地利用最適化推進委員の改選により、新たに9名が本協議会へ入会しました。新会員の皆様の農業委員会業務への意気込みや抱負とともにご紹介いたします。

仙北市農業委員会 農業委員 門脇 富士美 さん



農業委員を拝命し1年が経過しました。生まれ育った地域で農業をしながら暮らすのが好きですが、農業委員として視点を変えて地域を見ると、少子高齢化や担い手不足、遊休農地の増加等、想像以上に深刻な状況であることを知りました。農地の集約化や大規模化等、農業・農地をめぐる状況の変化が大きく、理解しにくいことばかりですが、先輩委員の皆様からご指導いただき、行政と地域の橋渡し役となれるよう、努力していきたいと思っています。

仙北市農業委員会 農地利用最適化推進委員 田中 誉志美 さん



令和5年12月に農地利用最適化推進委員を拝命し、事務局や諸先輩の方々に支えられ、この1年間自分なりに一生懸命活動してまいりました。高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増加、海外との競争激化、農業収益の低さなど、課題が山積みとなっている農業情勢において、女性推進委員の役割の大切さを日々痛感しております。まだまだ手探り状態ではありますが、地域農業の発展のため、尽力してまいりたいと思っています。

横手市農業委員会 農業委員 高田 恵律子 さん



昨年より辞令を受け農業委員になり、農業について日々学んでおります。近年の地球温暖化、後継者、担い手不足等の課題が多々あります。農地パトロールで地域の山間部を目の当たりにし遊休農地の活用等の問題も山積みです。先輩方の指導、地域の方々の意見に耳を傾けながら農家の方々の力になれるように精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

横手市農業委員会 農地利用最適化推進委員 齊藤久美子 さん



五年前に仕事を辞めてすぐ、ちょっとドライブしてみようと隣の市境まで行って見て衝撃を受けた。荒れた地のなんと多いことか。職場と自宅を往復の生活約三十年、近くなのに全く知らなかった。これ、このままでいいのかな…そんな思いで引き受けた次第である。

これからの農業を考えて故郷を想う。ああなってしまった土地は戻らないかもしれないが、今まで故郷に無関心だった自分が、少しでも何かの役に立てれば。



横手市農業委員会 農地利用最適化推進委員 藤原 晴菜 さん



令和6年4月より、農地利用最適化推進委員を拝命いたしました。まだ就農2年目で、農業についても農地についても分からないことばかりですが、先輩方の農業に対する熱意に背中を押され、新人ながらも日々奮闘しております。これからは私自身が新規就農者の後押しをできる存在になっていきたいです。

人口減少、農地の集約化、鳥獣被害など課題は山積しておりますが、希望を持てる農業を目指し、精一杯努力してまいります。

八峰町農業委員会 農業委員 石岡 てつ さん



令和6年7月に辞令を受け、農業委員として、先輩委員そして事務局の方々から御指導をいただきながら活動しています。

私の地区では、年々耕作されない農地が増え、また農業者の高齢化や後継者不足が深刻になっています。

研修会や農地パトロール等の活動を通して、少しずつ学びながら農地の皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。

八峰町農業委員会 農業委員 今井 幸恵 さん



昨年7月から農業委員になり、何も分からないまま約半年が過ぎてしまいました。

まだまだ分からない事だらけなので、先輩方のご指導を受けながら色々な研修等に参加し、地域の人達と交流を深め、これからの農業と地域農業発展などを勉強して、これからの事に生かしていきたいと思います。

三種町農業委員会 農業委員 柴田 千津子 さん



令和6年7月より農業委員として仕事をさせて頂いています。

兄も前期まで農業委員をやっていたので、内容的に少しは理解できると自負していましたが、思いのほか活動が幅広く、総会、農地パトロール、現地確認等々、仕事の大切さを実感する日々。

先輩や事務局の方々の指導の元、地域農業を見守り、女性の視点から皆様のお役に立てるよう微力ながら頑張りたいと思います。

能代市農業委員会 農業委員 大高 富子 さん



令和6年7月に任命を受け、参加させていただいております。これまでは、消費者として間接的に農業従事者の方にお世話になり、日々の生活を送っておりました。

この度、委員となり様々な問題、課題があることに気づかされました。わからないことばかりで、勉強不足を痛感しております。委員の皆さまと活動し学びながら、今後の最適化に向けて、微力ではございますがお手伝いさせていただきます。



6. 女性農業委員・女性農地利用最適化推進委員のペンリレー

私のつぶやき

～ 執筆者 大館市農業委員会 農業委員 渡邊 久留美 さん～



農業委員の一期目を終える時、難しすぎる活動に挫折したり勉強不足もあって自信を失くし、もう委員は辞めようかなと悩む日々でした。それでも三年間活動をしていて、自分が委員をやる前は他の農地の事はほとんど気にも留めていなかったのが、ここの田んぼは経営者が変わったのかとか、この畑は今年耕作されなくなっただとか、気付けばそういう目線で見ている自分がありました。そしてこれらの農地はこれからどうなっていくんだろうかと…。

結局一期だけでは中途半端で努力もしないまま終える自分に納得がいかず、微力以下だけと頑張ってみようと二期目をやらせてもらっています。しかし未だに勉強不足ですが…。

昨年から始まった「地域計画」。いろいろ課題もあり、理想通りの地図が出来るかはわかりませんが、わたしたち農業委員の頑張りどころかなと思います。田園風景を眺めながらずっとこの景色が守られることを願います。

～ 執筆者 潟上市農業委員会 農業委員 佐々木 美奈子 さん～



早いもので、農業委員になって8年になろうとしています。農家に生まれ農業に携わる仕事に就きたいと進学しながらも、全く異なる職業を選択したことが「澁」となり、いつか機会があれば学び直したいと思い続けていました。そのことから、農業委員として農業に携われたことは私には何ものにも得難い月日と経験です。

しかしながら、地域農業が抱える課題についても目の当たりにすることがあり、特に担い手に関しては女性を含め、より多様な従事者が関わる農業経営が必要だと感じています。

例えば、農福連携を進めていく事もその一つです。福祉分野との連携は障がいや働きづらさを持つ人が携わることで農業の広がりや新しい潮流を生み出すと注目されていますが、運用の課題も少なからずあります。私がこの事に興味を持ったきっかけは障がいのある長男が働くことへの強い不安を抱えていることからでした。また福祉の分野に関わるがありますが、障がいを持つ方への偏見が未だに多くあることも感じざるを得ず、この取り組みを進めるには、雇用する側が障がいを持つ方への理解を図ることが重要になると感じています。

誰もが暮らしやすい社会のためには地域農業を活性化することは必要不可欠であり、そこに福祉が関わることで更なる強さと可能性を生み出すことに繋がります。農業のみならず社会課題の解決の為に多くの方に農福連携について知ってほしいと願うこの頃です。

編集・発行：秋田県農業委員会女性協議会（事務局：一般社団法人秋田県農業会議）

秋田市山王4丁目1-2 秋田地方総合庁舎内 TEL:018-823-2785 FAX:018-823-7361

